

(様式1)

校 種	① ・ 中	学校番号	4 8	学校名	宇都宮市立雀宮東小学校
-----	-------	------	-----	-----	-------------

令和5年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の教育を基盤として、新たな時代をたくましく創造的に生きていくことのできる心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな児童を育成する。

(2) 具体目標

①目指す児童像

合言葉 すなおで かしく たくましく 責任果たす ひがしの子

- 1 豊かな人間性の育成 《心豊かで素直な子》
- 2 自ら学ぶ能力や態度の育成 《よく考え進んで学ぶ子》
- 3 体力と気力の増進 《健康でがんばる子》
- 4 自主的・自律的な態度の育成 《決まりを守り責任を果たす子》

②目指す学校像

- ◆楽しく充実した居がい感のある学校
- ◆子供と教師が共に育つ学校
- ◆地域とともにある魅力ある学校

2 学校経営の理念

雀宮東小学校の歴史と伝統を重んじ、「すなおで かしく たくましく 責任果たす ひがしの子」の育成を目指し、学校・家庭・地域が一体となって、創意工夫をこらした教育活動を展開し、誰もが安心して学べ、活力にあふれる、地域とともにある学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針

(1) 《活力あふれる楽しい学校づくり》

児童一人一人のよさを認め、児童にとって居がい感のある活力あふれる楽しい学校づくりに努める。児童一人一人を大切にする教育を具現化するため、地域や児童の実態に即した創意工夫ある教育課程の編成に努める。また、教育者としての愛情と使命感をもった教師力の向上に努める。

- ①特色ある教育課程の編成・運用・改善
- ②教職員の資質の向上
- ③認め励ます教育の充実
- ④学年・学級経営の充実

(2) 《豊かな心の育成》

全教職員の共通理解のもと、のみどり活動を中心とした体験活動を充実させるとともに、道徳教育・読書活動の充実を図り、児童一人一人に感謝の心や思いやり、想像力などの豊かな心を養う。

- ①体験活動の工夫と充実
- ②特別の教科「道徳」の充実
- ③読書活動の推進

(3) 《確かな学力の定着》

分かる授業の展開と基礎・基本の確実な定着，学び合う時間の充実に努め，児童一人一人の学ぶ意欲を高めるとともに確かな学力の定着を図る。

- ①学びに向かう力の育成（知識・技能の習得，思考力・判断力・表現力等）
- ②基礎・基本の定着
- ③自分の考えを深める学習の充実
- ④家庭学習の習慣化

(4) 《健やかな体の育成》

教科体育を核に体力・気力を養う教育の充実に図り，健康で安全に生活できる能力・態度を育成する。

- ①基礎体力の育成
- ②教科体育の工夫と充実
- ③危機回避能力の育成

(5) 《児童指導の充実》

決まりやマナーを守り，いじめを許さず，児童一人一人が自分で考え行動しようとする態度を育てる。

- ①規範意識の醸成
- ②いじめを許さない態度の育成
- ③不登校対策の取組の充実

(6) 《特別支援教育の充実》

特別支援教育の視点に立った授業改善を図り，全校体制で配慮を要する児童への支援の工夫に取り組む。

- ①特別支援教育の視点に立った授業改善
- ②特別な支援を必要とする児童への支援の工夫

(7) 《地域とともにある学校づくり》

家庭・地域・地域学校園との連携を密にし，地域の教育力を生かした学校づくりに努める。

- ①地域との交流活動の充実
- ②情報の効果的な発信
- ③雀宮地域学校園における小中一貫教育の推進

(8) 《勤務時間を意識した働き方の推進》

新しい時代の教育に向けた学校における働き方の推進に向けて，適切な勤務時間の設定ができるよう改善を図り，校内の業務の効率化・簡略化に努めるなど学校運営の適正化に努める。

- ①校内の業務の適正化・効率化（教職員の勤務時間管理の徹底）
- ②金曜日課（清掃・昼休みカット）及びリフレッシュデーの充実
- ③保護者や地域の教育資源等の有効活用

[雀宮地域学校園教育ビジョン]

一人一人が自らのよさを自覚し，主体的に学ぶ児童生徒の育成～いきいきとした活動を通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法，小学校学習指導要領等の教育関係諸法令並びに「栃木県教育振興計画2025」「宮っこ未来ビジョン」「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「令和5年度指導の重点」等の示すところに従い，公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
- (2) 本校創立以来150年の歴史と伝統を踏まえ，児童の実態や学校の特色や地域のもつ豊かな教育力を生かして，知・徳・体の調和のとれた人間性豊かで「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指した教育課程の編成に努める。

- (3) 本年度の学校教育目標、学校経営方針、努力点や具体策、学校課題の具現化を図るとともに、学校教育の活性化を図る特色ある教育課程の編成をする。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

学校・家庭・地域の連携を基盤とし、児童一人一人が自らのよさを発揮しながら生き生きと学べる学校づくりを推進する。校内の業務の適正化に努め、勤務時間を意識した働き方を積極的に推進する。

(2) 学習指導

個に応じた 豊かな学び ～ICT機器の効果的な活用を通して～

(3) 児童生徒指導

○豊かな心と正しい判断力をもち、自ら考え、進んで行動できる児童の育成

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

○生涯を通じて健康な体を維持し、体力・気力を向上していくための基盤づくり

～自分の健康に関心をもち、進んで健康・体力の増進に励むとともに、自他の安全に配慮できる児童の育成～

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食育・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

①確かな学力の定着

②地域の教育力を生かした体験活動の工夫と充実

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

①について

ア 学力調査結果の分析を踏まえた授業改善

◇イ 「すずどんチャレンジ国語・算数（AI型ドリル教材の活用）」、家読、日記指導（作文指導）等本校独自の取組を継続する。

◇ウ 学習用具、学習態度、家庭学習など、学習に関する約束の徹底を図る。

◇エ ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに努め、ねらいが明確で、児童が見通しをもって主体的に取り組む授業、分かる喜びや考える楽しさを味わえる授業の展開を目指す。

◇オ 主体的・協同的な学びを通じた思考力・表現力を育てる授業づくり、児童の発言をつなげ広げる教師のコーディネート力を向上させる等の授業研究の充実及び同僚性の充実・強化を図る。

◇カ 読書活動の充実（読書タイム・読み聞かせ・家読等）

◇キ ICTの効果的な活用

②について

◇ア のみどり活動（種まき・田植え・稲刈り・どんど焼きへと続く農業体験活動）

雀老連（地域高齢者）との交流活動、幼稚園児との交流活動、地域を題材にした学習活動、地域人材を活用した学習活動などが、児童の主体的な活動となるよう工夫・改善を図る。

◇イ 伝統を継承する人々の生き方に触れる体験的な活動（のみどり活動・ぼうじぼ作り等）、郷土の歴史・文化・伝統等（笹塚古墳、上神主茂原官衙遺跡）について理解する学習を通して郷土への愛情と誇りを育む学習の充実を図る。

◇ウ 自然の雄大さ、人を思いやることや物事をやり抜くことの大切さ等、豊かな感性を育むことができる体験活動となるよう、総合的な学習の時間、道徳科、特別活動等との関連を図るとともに、感謝の心を保護者・地域に向けて発信していけるようにする。

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

地域で子どもを守り育てるという共通認識のもと、学校と保護者、地域、地域協議会が一体となって児童の安全確保に関する活動、地域に伝わる行事の継承に力を入れていく。学校と地域が教育目標やビジョンを共有しそれぞれの役割を分担・協働して子供たちの教育を担っていく。

②主な取組

- ア どんど焼きの継承（のみどり活動を軸とした活動）
- イ 雀老連との交流活動（ぼうじぼ作り、昔の遊び、昔の暮らし、戦争の話など）
- ウ 地域の文化財や産業を活用した活動（笹塚古墳見学、いちご農家見学、商業施設見学）
- エ 地域人材（県立南高校や県立工業高校の教員・学校薬剤師・地域高齢者等）を活用した授業の展開
- オ 下校時における地域・保護者主体の見守り活動、地域と連携したあいさつ運動、安全マップづくり
- カ 魅力ある学校づくり地域協議会との連携・協働（あいさつ運動・地域ボランティア・学校評価等）

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

義務教育9年間を通して、児童が自分らしく生き生きと学校生活を送れるようにするため、小中の相互理解を深めるとともに、児童に自覚や心構えをもたせる。

②主な取組

- ア 学力向上：乗り入れ授業（中から小へ）、家庭学習の統一基準設定、中学校英語科授業の参観
- イ 学校生活適応：あいさつ運動、児童生徒指導強化対策連絡会・不登校対策連絡会、SC・かがやきルーム担当者等の小学校訪問・情報交換、個別支援の引継
- ウ 体力増強：学校園統一ドッジボール大会、運動会学校園統一「よさこいソーラン」の実施
- エ 食育：お弁当の日合同実施、マナー週間の取組、食育ファイルの作成・活用
- オ 交流促進：学校園内の図書相互貸借、「地域学校園校長会議」による情報交換・行事調整等
- カ 地域学校園事務室：共同事務の実施、事務の効率化、消耗品の共同購入

(3) 不登校対策

①基本的考え

児童一人一人が、自らの課題を乗り越え、自己の可能性を伸ばすことができるよう、心身ともに健康で、どのような社会の変化にも柔軟に対応できる児童の育成を目指し、児童の教育的ニーズを把握し多様な児童の状況に応じた指導・支援を行う。

②主な取組

- ア 未然防止：学級経営の充実、児童・保護者との良好な関係の構築
- イ 早期発見・早期対応：情報収集（教育相談、学校生活アンケート、Q-U検査、欠席状況調査等）、全教職員による情報の共有、電話連絡、家庭訪問、要因・背景の理解、家庭との連携
- ウ 組織的対応：共通理解、多くの教職員のかかわり、可視化、能視化（意識化）
- エ 関係諸機関との連携
- オ 地域学校園における不登校対策連絡会
- カ 積極的な別室登校支援及びICT機器の活用

(4) GIGAスクール構想

①基本的考え

全ての児童・教職員が端末を文具の1つとして授業の内外で日常的に活用することができるよう、授業における協働学習ソフトの活用、探求的な学びの促進へと段階的に活用を進める。

②主な取組

ア 目標の共有化：ICT活用計画の作成，ICT支援員の活用，

イ 校内研修の充実：Web会議システムの有効活用，教員のICT活用指導力の向上，ICT支援員の活用，「GIGAスクール構想 本格運用時のチェックリスト」の活用

ウ 新たな「学びの基礎スキル」習得：検索サイト，デジタルコンテンツ，ワープロ・表計算・プレゼンソフトの共同編集，AI型ドリル教材，映像教材，特別支援機能プログラミング

エ 情報モラル教育の充実：端末等の適正な取扱い，保護者・関係諸機関との連携

オ 児童の健康への配慮：姿勢，利用時の目と画面との距離，定期的な休憩，明るさの調整，日常観察等

カ 保護者・地域等の理解の促進：パンフレットやリーフレット等の活用，各種たよりやホームページ等による情報提供，授業公開

キ 学校休業・臨時休業への備え：「まなびポケット」「eboard ホームスクール」，Google クラスルーム等の活用やmeetによる配信

(5) 宇都宮学

①基本的考え

郷土宇都宮の歴史や伝統文化，産業などについて，体系的な学習を行うことを通して，郷土への愛情や誇りをもち，よりよい社会を創る担い手となるとともに，未来に向かって主体的に生きていくための資質・能力を育成することを目指す。

②主な取組

ア 基礎期（3・4年）：社会科副読本「わたしたちの宇都宮」に基づき，宇都宮のよさに気付き親しむ。

・3年－社会科副読本「わたしたちの宇都宮」全範囲70時間

・4年－社会科副読本「わたしたちの栃木県」の宇都宮と関係が深い内容との関連付け，15時間程度（宇都宮の水道，クリーンパーク茂原，宝木用水，二宮金次郎等「宇都宮施設めぐり」との関連「宇都宮学へのとびら」）

イ 活用期（5・6年）：小学校版「宇都宮学」副読本に基づき，「総合的な学習の時間」に15時間の単元を位置付け，宇都宮のよさを理解する。

・5年－「宇都宮の自然と交通」（場所・地名，自然環境，生きもの，農産物，交通）

・6年－「宇都宮の伝統文化」（百人一首，唄と民話，祭りと民俗芸能，伝統工芸，郷土料理）